

日本の復興及び更なる発展に向けて 科学技術はどう貢献できるか

Tokyo, 28 June 2011

Yuko HARAYAMA / OECD

yuko.harayama@oecd.org

3月11日後の日本

- ファクト
 - 自然現象＋負の連鎖
 - 喪失・破壊
 - 人、人工物、経済・社会インフラ、Social capital
 - 可視化
 - 連帯(国内・国外)、相互扶助、アクターとしての地方自治体
 - エネルギー供給システムの脆弱性、社会システムの電気依存度、グローバル・バリュー・チェーンの浸透
- アクション
 - 復旧
 - ライフライン、インフラ、がれき処理・・・
 - 生活、経済・社会活動の基盤確保
 - 福島第一原子力発電所
 - 復興
 - 都市の再構築、産業組織の再構築、社会組織の再構築
 - 構想、財源、リーダーシップ(国 & 地域)、地域アクターの参画

科学技術を駆動させる？

- 実証的

- 現象・問題点の解明：データ収集、解析
- 予測の精度 ↑
- 技術的課題への対応
- 政策形成の場に客観的根拠を提供



- スコープ：現象の理解 >> 具体的な解
- アプローチ：部分的 >> 包括的
- インパクト：中長期的 >> 短期的

- 規範的

- 政策判断への科学的助言

ポテンシャル
と限界の認識